

## 現在の COVID-19 ワクチンに対する考え方

JSPCCS COVID-19 対策特別チーム

### 1. 現在のワクチン接種に対する考え方のまとめ

- 国（国民）としては、少しでも多くの方がワクチン接種すれば感染は終息に向かうので、ワクチン接種は基本的に、すべての国民に積極的にすすめたい。
  - 終息すれば、当然すべての国民の感染リスクが低下する。
- その上で、重症化が予測される方には、さらに積極的にすすめたい。
- 一方、重症化が予測されない方には、ワクチン接種のメリット・デメリット（下表）を考慮のうえ、すすめたい。

状況	メリット・デメリット	対応
ワクチン成分にアレルギー	メリット<デメリット	接種しない or 特別注意
高齢者（重症化が予測される）	メリット>>>デメリット	積極的に接種
基礎疾患のある 16 歳以上 （重症化が予測される）	メリット>>デメリット	積極的に接種
基礎疾患のない 16 歳以上 <sup>*1</sup>	メリット>デメリット	説明して接種をすすめる
基礎疾患のある 12 歳～16 歳 （重症化が予想される） <sup>*2</sup>	メリット>デメリット	接種をすすめる
基礎疾患のない 12 歳～16 歳 <sup>*3</sup>	メリット=デメリット	説明して任せる

\*1: 重症化率が低くメリットは少ないが、人口として多いので終息効果は高い。まれな心筋炎等の副反応はあるが、副反応も重症化するリスクは低い。自身+周囲のためメリットが上回る。

\*2: 思春期小児では HPV ワクチンにも認められるような特有の副反応を含めて、副反応の頻度が高い。しかし、重症化が予想される基礎疾患がある場合、メリットが上回る。

\*3: まだデータが少なく、また重症化が予想されない場合、副反応のデメリットも大きい。

### 2. 副反応：心筋炎/心膜炎のまとめ（CDC 報告<添付>より）

- 若年者に多い（以下、2 回目接種後の数字）
  - 総接種者の 8.8%にあたる 12-24 歳での発現が全体の 52.5%を占める
  - 発現率は 12-24 歳で 0.002-0.003%、25 歳以上で 0.0001-0.005%程度
- 男性に多い（1 回目男性 65%、2 回目男性 80%）
- 2 回目接種後に多い（1：2.6 程度）
- 軽症・完全回復例が多い（81%以上）・ICU 収容率 1%

- 報告例では健常者が多い（基礎疾患の報告例はなく、下記いずれも不明）
  - 基礎疾患のある方には心筋炎の副反応が出にくいのか
  - 基礎疾患の方に心筋炎の副反応が起こったら重症化するかどうか

### 3. ワクチン接種についての質問に対する説明項目例

基本的に「私は（子供は）ワクチンを受けてもよいですか？」という質問が多い。

1. なるべく多くの方が受けた方が、集団免疫の成立により感染者数が減少し、感染収束を早期に実現させやすいためワクチン接種を積極的におすすめします。
  2. ワクチン接種をしない方がよいのは、過去にワクチン接種でアナフィラキシー反応（アレルギーにより短時間で全身に激しい症状＜全身のかゆみやじんましん、喘息や呼吸困難など＞を起こすこと）が出たことがある方です。アナフィラキシー反応はワクチンの成分（添加物）に対する反応であり、コロナワクチンでも同様の添加物への反応が予想されるためです。
  3. 発熱時（37.5℃以上）や、急性疾患治療中には、ワクチン接種はできません。治癒した後に受けることができます。
  4. 特に重症化が予測される基礎疾患のある方は積極的に受けましょう。
  5. 重い副反応が起こることは稀です。一方、軽い副反応はよく起こります。
  6. 重い副反応であるアナフィラキシー反応は、ワクチン接種後 15～30 分以内に起きることがほとんどです。接種した場所で 15-30 分ほど様子を見ることになっているため、それに従いましょう。
  7. 軽い副反応として、疼痛、発熱、頭痛、腹痛、けん怠感などはよく起こります。1 回目は接種後 1-2 日間、2 回目の方が多く、接種後 2-3 日間起こりやすいです。鎮痛・解熱薬（市販薬でも可）を内服しても問題ありません。
  8. 胸痛、動悸、呼吸苦など、よくある副反応でない症状や、鎮痛・解熱薬でもよくなる強いつけ医に連絡して、診察してもらいましょう。副反応は、新型コロナウイルス感染症（そのもの）ではありません。
  9. 抗血栓・抗凝固薬服用中（ワーファリンは必須、その他は推奨）の方は、筋肉注射で内出血するかもしれません。接種後様子を見ている間、接種部位はもまらずに、しっかり押さえておきましょう。
- \* 特に（具体的に副反応の種類や頻度などを細かく説明するよりも）8 の項目が、患者さん・ご家族の安心な接種につながっているように思います。